

母が事故に遭って感じたこと

55歳 女性

交通事故から1年が経ちましたが、思い出すのも嫌です。

突然起こった事故。夕方、横断歩道を主人と私、その後を歩いていた母が車にはねられたのです。脇見運転の車でした。

私達はもうパニックです。加害者は、先で車を止め、ポーと立っているだけでした。

私が119番へ電話しようとするのですが、手が震えてうまく架けられませんでした。

やっとながら事故の状況をいろいろと聞かれたように思いますが、「早く救急車を！」と叫んでいたように思います。

救急車が来るまでの数分間、ものすごく長く感じました。

母は命に別状はなかったけれど、鎖骨2本、肋骨4本の骨折に打撲。84歳の老体にはこたえたようです。

テレビなどで交通事故のニュースはよく聞きますが、まさか自分の家族がこのように目に遭うとは思いませんでした。

しかし、加害者は自賠責しか入っておらず、お金がないと言い、何も誠意を示してくれませんでした。最低の人間です。

私達は何もかもが初めての経験で、無料の弁護相談に行ってみたり、市役所に行って書類を集めたり、自分達で全部しました。

家族の生活が一転です。しなくていい夫婦喧嘩もしました。

退院するには入院費を支払わなくてははいけません。入院費を私達が立て替える羽目になってしまいました。

母の保険を使ったりして、自賠責ではギリギリの補償でした。

その後、加害者がどうなったのかをこちらの方から聞かないと警察は教えてくれない。おかしいことばかりです。

もっと相談できる機関が出来ることを望みます。

私達も車を運転する身なので、もしもの時のためにも、保険は相手に対して最低の補償だと改めて思いました。

母は2か月入院して、3か月程通院し、体力も落ち、精神的にもまいっていましたが、1年が経ち、やっと普通の生活に戻ってきています。

誠意がない加害者を、私達は絶対許すことができません。